

3. 茨木市で起こった過去の水害

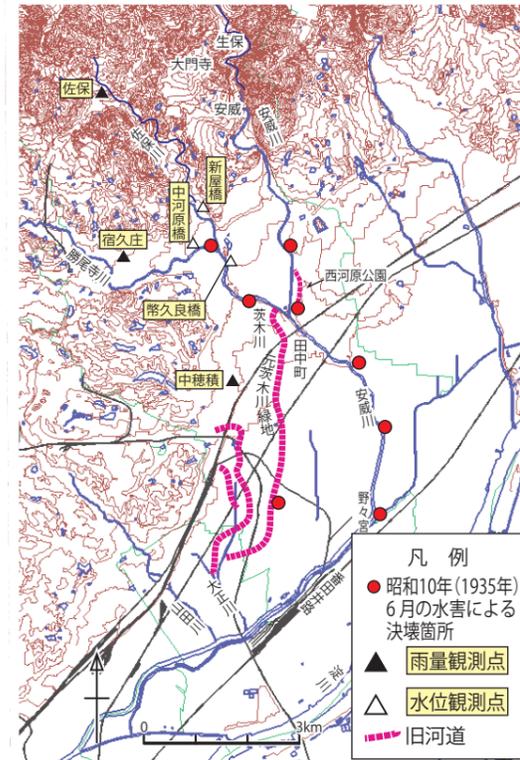
昭和10年(1935年)の水害

昭和10年(1935年)6月29日から30日に発生した大雨により、茨木川が中河原、五日市、沢良宜西および沢良宜東両岸、三宅村大字鶴野で、安威川が十日市、西河原、戸伏、二階堂、玉島村大字島でそれぞれ決壊し、またこの年の8月9日から11日にかけて襲来した台風で再び豪雨に見舞われ、安威川、茨木川の堤防の多くが再び決壊しました。

この水害を契機に、昭和16年(1941年)、茨木市街を並行して南流していた安威川と茨木川が合流され、茨木川は田中町より南で廃川となりました。



提供：茨木神社



参考：図説地理 近現代の茨木

昭和42年(1967年)の水害(北摂豪雨)

昭和42年(1967年)7月8日から12日にかけて西日本一帯を襲った集中豪雨(北摂豪雨)では、茨木雨量観測所において総雨量248.5mm(最大時間雨量60.0mm)を観測し、全壊家屋10戸、床上浸水1,892戸、橋梁の流出および一部破損18箇所等、茨木市で甚大な被害が発生しました。

この北摂豪雨を契機に、安威川流域の抜本的な治水対策として安威川ダム建設計画が立案されました。



戸伏町

出典：図説地理 近現代の茨木



参考：図説地理 近現代の茨木

4. 茨木市で想定される氾濫シミュレーション

茨木市域の氾濫シミュレーション

洪水のシミュレーションの前提条件

想定最大規模とは ▶▶▶ 想定される最大規模の降雨	
安威川等 ^{※1} 流域の24時間雨量	776mm ▶▶▶ 1/1,000年程度 ^{※2} の降雨
淀川流域の24時間雨量	360mm ▶▶▶ 1/1,000年程度 ^{※2} の降雨
女瀬川流域の24時間雨量	1,070mm ▶▶▶ 1/1,000年程度 ^{※2} の降雨

計画規模とは ▶▶▶ 河川整備における基本となる降雨	
安威川等 ^{※1} 流域の24時間雨量	247mm ^{※3} ▶▶▶ 1/100年 ^{※2} の降雨
淀川流域の24時間雨量	261mm ▶▶▶ 1/200年 ^{※2} の降雨
女瀬川流域の24時間雨量	289.8mm ▶▶▶ 1/100年 ^{※2} の降雨

※1 安威川等流域のシミュレーションは、以下の16河川の洪水浸水想定区域を重ね合わせたものです。安威川、山田川、茨木川、大正川、正雀川、正雀川分水路、境川、新大正川、三条川、佐保川、勝尾寺川、箕川、郷之久保川、川合裏川、裏川、土室川分水路
 ※2 観測された雨量に基づいて設定された確率です。例えば、1/1,000年程度の降雨とは、1,000年ごとに1回発生する周期的な降雨ではなく、1年の間に発生する確率が1/1,000(0.1%)程度の降雨です。毎年の発生確率は小さいですが、規模の大きな降雨であることを示しています。1,000年の間にその規模に相当する降雨が複数回、または連続して発生することもあります。
 ※3 山田川、大正川については、流域内の1日の総雨量289mmの降雨を想定し浸水の状況をシミュレーションしています。

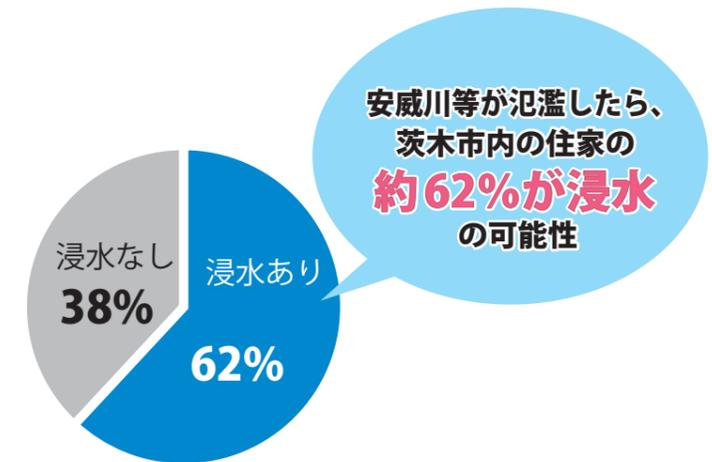
内水氾濫のシミュレーションの前提条件

茨木市全域で最大1時間雨量	146.5mm ▶▶▶ 過去に他地域で起こった最大級規模の降雨
---------------	---------------------------------

安威川等が氾濫したとき



茨木市に最も大きい被害を及ぼす洪水は、安威川等の氾濫です。茨木市内の住家(約3万2千戸)のうち、約6割が浸水する可能性がある区域に含まれています。



※このハザードマップに示した洪水浸水想定区域は、一定の前提条件でシミュレーションを行った結果です。状況によって実際の被害の程度は異なります。
 ※淀川、女瀬川が氾濫した場合の区域は含んでいません。